

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

奥の細道  
むすびの地  
大垣



令和四年十一月度 入賞句一覧 投句数 六百二句

大堀 武直 選

特選

雑踏の一人に一つ冬の月

神奈川県相模原市 中村 光枝

都会の雑踏。多人数で混み合っではいるが、人の繋がりはないようだ。群衆の中に居て孤独を感じることはよくある。  
冬の月は寒々とした空に煌々と冴え渡る。一人一人がそれぞれ別の思いで冬月の下を歩いている。  
「一人に一つ」が発見である。

サーファアの飛び込んでゆく秋夕焼

東京都新宿区 花澤 ちいこ

青い海。波に乗るサーファアの上に秋の夕焼が広がっている。その中に飛び込んでゆく様に見える躍動的な情景だ。  
秋の夕焼は夏の夕焼に比べると時間が短く、少しもの寂しい。躍動の陽と秋夕焼の陰の取合せが心地良い。

団栗落つ小さな音を拾ひけり

大垣市 村田 通夫

木の下を歩いているとポトツと小さな音がした。音の方向に目をやると、団栗が一つ落ちていた。今落ちたばかりのものであると拾う。この団栗の存在を覚えてくれた音。その音を拾ったという表現で詩となった。

秀逸

日本書紀は漢字ばかりや文化の日

奈良県奈良市 やまとなでしこ

夕刊に少し湿り気十三夜

東京都世田谷区 関戸 信治

この街にこの樹のありて小鳥来る

養老郡養老町 田中 紫香

釣り竿を磨ひては振る夜長かな

大垣市 安田 むつこ

夫と居るいつもの暮らし小鳥来る

大垣市 中村 昌子

短冊に想ひを込めて蛤塚忌

大垣市 村瀬 利明

子規の忌の雨も宜しき一日かな

静岡県富士市 イソノアキヒト

言葉なき電話の向こふ秋の雨

神奈川県川崎市 立野 音思

しんがりのちびっこ芒高く持ち

大垣市 村瀬 佐智子

カステラのざらめじやりつと嘯む子規忌

埼玉県さいたま市 澤田 紫

入選

檜の香するおしぼりや今年酒

大垣市

遠藤 加容子

古利まで前へ後ろへ秋の蝶

本巢市

小泉 裕子

秋日和ひとり遊びのややのこゑ

養老郡養老町

佐藤 咲楽

玉響のレンジ待つ間の秋思かな

大垣市

立川 昌子

秋の夜や刺子整ふ一人の灯

福井県敦賀市

山田 美千代

牧を去る身重の牛や秋の暮れ

安八郡神戸町

中村 信正

ひとひらの雲の迅さや冬木の芽

愛知県名古屋

館野 茂子

手入れするふいごに冬の来てゐたり

安八郡輪之内町

野村 照子

花八手夫百才の笑顔かな

大垣市

臼井 秀子

品書きの余白に小さくきのこ汁

大垣市

早筈 千恵子

鶉高音全校生徒二十人

大垣市

小林 研

幻しの城を探して末枯るる

大垣市

富田 和泉

仏の間飛驒の林檎の匂い満つ

大垣市

北島 暁子

糸電話色なき風の吹き抜ける

大垣市

傍島 隆

泡沫や分水嶺の秋の暮れ

愛知県名古屋

岩田 遊泉

ひややかな刃をすべらせてラ・フランス

大垣市

吉田 てるみ

廃校の空は蜻蛉の空であり

兵庫県加古川市

戸田 ミツヨ

膝抱いて船待つみなと鰯雲

大垣市

松岡 みつ

金網を抜けて首振るねこじやらし

大阪府東大阪市

森 佳月

鰯の目や父の名前入り包丁

広島県福山市

中常 かつたろー。

選者吟

新米のとき汁までも輝けり

武直

一般の部

